

一致協和

— 全國幼稚園關係者の一層の親和を切望す —

忌はしく、また耻しきは人と人との小さき不和な
 かな。それも我利没道の徒輩ならば識らず、語
 りて互に善を勵み、歌ひて共に美を唱する吾等の
 間に於て、若し夫れ一片、輿黨鬻際の際翳だにあ
 りといふものあらば如何。他所ごとならぬ耻しさ
 とは斯かゝることをこそいふなるべし。先づその
 小心を耻ぢ、不徳を耻ぢ、而して、自己の従事せ
 る事業の爲に、その遠大なる發達の爲に、廣く謀
 るの熱心の足らざるを耻づ。之れ豈已を輕侮する
 の最も大なるものにあらざらんや。但し、吾輩
 敢て必ずしも此陰翳の所在をいふものにあらず。
 たゞ時あつての、一層の晴朗と和順とを憧憬嘆美
 するの念あるのみ。然りその念の自ら抑へて禁じ
 能はざるものあるのみ。友よ、暫くわが憧憬嘆美
 の聲をゆるせ。

教育は心なり。教へて平和親睦の徳を幼児に養は
 んとするもの、自ら先づ平和新睦の實なくして可
 ならんや。幼児の心は明鏡の如し、我が心裡一切
 の曇り、一つとして映せざるはあらず。出でて紛
 騷の巷に或は霸心を藏し、或は嫉心をつゝむもの、
 内に其の惡感化を幼児に與へざることを得んや。
 幼児教育者が總て常に一致協和の怡樂を有せざる
 べからざるの理、之を以て其の第一とす。世にエ
 ラ人と稱せらるゝものあり。或は縦横の術策よく
 風衆を禦し、或は多年の勢力よく一派の將となる
 ものあり。吾輩成る程そのエラキに服す。しかも
 此の人必ずしも我が愛子を托すべきの人にはあら
 ず。世に小人なるものあり。常に他人の成功を嫉
 み、事毎に猜忌の妬心を藏し、或は陷擠、或は毒
 言、陰險なる小策を弄するを以て常性とし。此の
 輩、我が愛子を托すべからざるや言を俟たず。而
 して世の一致協和を破るもの、彼れにあらずんば

即ち之れ。彼れや僧むべく、之れや憐れむべきの差ありと雖、共に柔軟なる幼児の心性の師友たらしむべからざるや一つなり。吾寧ろ斯の輩自ら其の驕慢と卑屈とを、思無邪神の如き幼児の前に耻づべきなり。吾輩常に思ふ。幼児教育者の第一の幸福は、平常親接する處の幼児によりて、眞徳の美を教へらるゝにありと、其の教へらるゝこと尠きは吾人の寡徳なるにあらずんばならず。尙且つ吾人は常に幼児に教へて、親睦の美徳を求むるもの、人に求めて自ら其の實あらずんば、幼児に對する面目の上に、先づ慚すべきにあらずや、寡徳か、不誠實か、識らず、實際はもう少し氣を大きくさへすれば何でもなきことなり。直に裕和のつく話なり。不協和の原因は、或は感情の衝突にもよるべし、行かゝり上の意地張とかにもよるべし。しかも要するに數に於ても事業に於ても、未だ大した複雑も大袈裟もなき我國幼児教育者の間に、事々しき朋黨呼ばはり寧ろ滑稽の感を促す

のみ。出身の學校の異なるが何程のことぞや。官私とやらの別が何程のことぞや。我國人と外人との相違が何程のことぞや。箱根の關の西と東とが何程のことぞや。日々相手にする幼児こそ小さくとも。吾人の心膽はもう少しく濶く大きくして可なるべきものなり。

三

保育上の説を異にするによつて、研究的に相對峙するは、吾輩の寧ろ大に賛成する處なり。若し其の誠意幼児教育の發達の爲にありとならば、假りに幼稚園教育反對論と雖も吾輩の謹で傾聽する處なり。しかも斯くの如きは必ず常に學理上の争ひならざるべからず。研究上の對峙ならざるべからず。而して既に學理上、研究上の争ひなりとせば、其の争ひの第一要件は兩者心懷の虚淡と靜平と、眞理の前にする謙遜とを缺くことあるべからず。何事にかゝはらず。世上説を立つるもの、往々にして自説の主張と、我心の主張との別を混

するもの多きは、傍觀者をして眉をひそめしむるものなり。吾輩亦此の過ちに陥るべからず。自信の強きは可なり。しかも其自信は、平然として他を聴き得る程に強きものならざるべからず。塞を守つて辛じて敵襲を防ぐものは、未だ必ずしも強き城塞にあらざるなり。況んや、幼兒教育の原理方法、その根本に於て、枝葉に於て、吾輩をして正直にいはいはしむれば、未だ悉く研究中の事項といふも可なるべきのみなることを、此の間、誰れか不動確乎の權威を主張し得るものぞ。誠實なる學者は、其の説を語るや常に研究の俎の上に於てす、他に一層銳利なる調理師あつて、より細かなる解剖と批評とを與へらるゝを期望す。布に包み箱に納めて、そのまゝに珍藏せられんことを希ふものにあらざるなり。我が幼兒教育に就て説を立てつるもの、必ずまた此の學者の眞率と誠實とを有せられんことを希ふ。君が研鑽の深きを危ぶむにあらず。君が經驗の乏しきを疑ふにあらず。た

い、より大いなる敬意を、君が永久虚坦なる研究的態度の前に獻せんことを希ふなり。而して吾國幼兒教育の業が、層々たる自説の立て合ひをして已みけん程の閑事業ならば識らず。今は非常なる研究努力奮闘を要すべきの時なること、吾人の總てよく知る處にあらずや。尙且つその研究努力の範圍の諸般なる、到底一人少數の熱心者に委すべきものにあらざるも、吾人のよく知る處にあらずや。我國幼兒教育關係者の一層の一致協和を要するの理の第二は、即ち此の協力研鑽一致努力の必要にあり所謂熱心のみあつて研究心なきものは、必ずや頑固偏執に陥るを免れず。吾人常に深く警むべきを思ふ。

勝たば怨をうけつべし

伏なば心安からじ

勝と伏とを捨る身の

夜半の眼りを圓かなる

無瞋の如來を辱かしめ

無垢の聖者罵るも

風に逆ふ塵の如

かへりて己が身を汚す。